

「キッチン・キトサン研究」報文および総説投稿規定・審査規程

I. 総 則

1. 「キッチン・キトサン研究」はキッチン、キトサン、およびそれらの類縁物質と関連酵素に関する論文を掲載し、年2回発行する。
2. 論文は「原報文」「ノート」「総説」「解説」「話題」「資料」の6種類とする。用語は日本語または英語とする。
3. 原報文およびノートは未発表で、掲載に値する新事実を含む原著論文とする。ただし、口頭発表および要旨集に掲載した内容を投稿することは妨げない。投稿者は原則として一般社団法人日本キッチン・キトサン学会の会員であること。ただし、代表著者が会員である場合には、共同研究者として非会員を含むことは妨げない。代表著者が非会員である場合は、原則として投稿と同時に入会手続きを経て、会員となること。ノートは限られた部分の知見や新しい実験方法の発見等、原報文としてとまらないものであって、報告する価値のあるものとする。新規塩基配列は、DDBJ/EMBL/GenBankデータベースに登録しaccession numberを取得し、その旨をタイトルページの脚注に記載する。
4. 総説は既報の論文を中心に特定分野の研究および業績の紹介を目的とした論説である。総説の投稿者は一般社団法人日本キッチン・キトサン学会会員である必要はない。
5. 解説は基本的技術、実験手段の解説、有用な理論、特筆すべき発見等をわかりやすく説明したものとする。
6. 話題は最近の研究や研究・発見のエピソード等、意見、提案、情報交換を行うものとする。
7. 資料は著者の主観をはさまず、過去の研究結果に関する統計的資料をまとめたものとする。
8. 論文の掲載採否の決定権は一般社団法人日本キッチン・キトサン学会の編集委員会にある。また、掲載論文の著作権は別に規定しない限り、その電子化、オンラインでの利用を含めてすべて一般社団法人日本キッチン・キトサン学会に属する。
2. 原報文は、(1) 緒言、(2) 実験方法、(3) 実験結果、(4) 考察、(5) 文献などのように、適宜区分する。ただし、(3)と(4)は「実験結果および考察」としてまとめてもよい。ノートは本文の項目分けをせず、要旨、本文、引用文献の順に記すことが望ましい。総説は(1) 緒言、(2) 主文、(3) 引用文献の順に記すことが望ましい。
3. 図、表、写真の説明文は全体をとおして日本語または英語に統一する。
4. 字体は、明朝体、Times系を基本とするが、その他、イタリック体、ゴシック体を使うことができる。
5. 作図に当たっては掲載時の大きさが縦25cm以内、横6-8cm(印刷面の2分の1の幅)、または横15-17cm(印刷面いっぱいの幅)になるように考慮すること。
6. 図は1つごとに別ページに作成する。図が複数ある場合は図1、図2(英文の場合はFig.1, Fig.2)のように番号をつけること。各図の余白に図の番号と著者名を記入する。また、図の表題と説明文はまとめて別紙に記すこと。
7. 本誌は電子版(PDF)として公開されている。電子版では図がカラーであっても著者に料金の負担をかけないため、投稿に当たってカラーの図を受け付ける。なお、冊子体で図をカラー印刷する場合は別途料金が発生するので、これについては著者が負担する。また、白黒印刷でも鮮明な画像を希望する場合は、特殊な用紙と印刷方法が必要になるので、その場合も実費を申し受ける。
8. 表は1つごとに別ページに作成する。表が複数ある場合は表1、表2(英文の場合はTable 1, Table 2)のように番号をつけること。印刷の都合上、縦線なしで内容が明瞭に示せるような体裁のものを作成すること。さらに、表の上部に内容を適切に示す表題を、説明文などが必要な場合は表の下部に記載する。
9. 印刷時の図(写真を含む)と表の挿入希望箇所は、本文の中に「Fig.1」のように指示する。
10. 引用文献は下の枠内に示すように本文中に引用順に上付きの番号をつけ、本文の最後にまとめて掲載する。文献は著者全員の氏名、論文タイトル、雑誌名(書名)、巻、ページ、発行年の順で記す。書籍の場合は引用ページと発行年の間に出版社名(英文の場合は発行所の所在地)を記す。

II. 原稿の書き方

1. 原稿はワードプロセッサを使用して、A4判用紙を縦長に用い、行間隔をあけて印刷する。ローマ字は2字分を日本語1字分として計算する。

◇本文中の例

グリコールキチンは千手と沖増の方法¹⁾にしたがって精製キチンより調製した。

The degree of deacetylation was determined by infrared spectroscopic methods^{2,3)}.

◇参考文献の例

- 1) 清水慶昭, 米田晶子, 道明美保子: グルタリル化キトサンから合成した両親媒性高分子の界面特性. キチン・キトサン研究 16: 247-254, 2010
- 2) Ikeda H, Ishii T, Shimojoh M, Kurita K: Full trimethylsilylation of 2-N-phthaloyl-chitosan to synthesize a key intermediate for chemical modifications. Chitin Chitosan Res 18: 252-258, 2012
- 3) Domszy JG, Roberts GAF: Application of intermolecular interactions: application for chitin/chitinase system. Macromol Chem 186: 1671-1675, 1985
- 4) 滝口泰之: 生物界におけるキチン, キトサンの分布. キチン, キトサンハンドブック, 「キチン, キトサンハンドブック」編集委員会, pp 2-9, 技報堂出版, 1995
- 5) Sakurai K, Muto I: New crystal of chitosan prepared from a rubbery liquid crystal. In: Chitin and Chitosan -Chitin and Chitosan in Life Science. Uragami T, Kurita K, Fukamizo T (eds), Kodansha Scientific Ltd, Tokyo, pp 55-58, 2001

また, 受理決定の出された投稿論文は「印刷中」または「in press」とし, 校正時までには刊行されていれば, 巻, ページ, 発行年を記入する。

11. 論文の具体的な構成と順序を以下に示す。

- ① 投稿原稿には本会指定の投稿表紙【PDF/MS Word】をダウンロードし, これに所定の事項を記入する。なお, 表題が20字以上の場合は20字以内のランニングタイトルを記す。
投稿論文(投稿表紙)のダウンロード【PDF/MS Word】
- ② 1ページ目には日本語で, 表題, 著者全員の氏名, 研究が行われた機関名とその所在地を記載する(英語による論文の場合は不要)。
- ③ 2ページ目には英語で, 表題, 著者全員の氏名, 研究が行われた機関名とその所在地, 100~150語の要約(ダブルスペース), ランニングタイトル, キーワード(5つ以内)を記載する。
- ④ 3ページ以下に, 本文, 謝辞, 引用文献, 表, 図, 図の説明の順に並べ, 全体に通してページ番号を入れる。

III. 審査規程

1. 査読者の選定は編集委員会委員長が行う。
2. 査読は, 本学会理事, 正会員もしくは当該分野の専門家とする。
3. 査読は, 投稿論文1件につき査読者2名以上で行う。
4. 査読は, 編集委員会が別途定める報告書「論文審査依頼書・結果報告書(様式1)」を用いて行う。
5. 査読者は匿名扱いとし, 執筆者との仲介は編集委員長が行う。
6. 掲載の可否は, 編集委員長が決定し執筆者への掲載の可否を連絡する。
7. 編集委員会から論文についての修正意見が出された場合は, 著者は2ヵ月以内に, 明確な回答書および修正原稿を編集委員長に提出すること。修正原稿提出が2ヵ月を過ぎた場合, および, 内容が当初のものといちじるしく異なる場合の取り扱いについては編集委員長, 査読者の合議により決定する。

IV. 投稿にあたって

1. 電子メールによる投稿

投稿表紙および原稿をMS Word, Power Point等およびPDFで保存後, 添付ファイル(5MB以内, 容量の大きい図, 写真は別メールで分けても可)としてoffice@jssc.jpに論文投稿メールであることを明記して送信する。受信日をもって受付日とする。

2. 郵送による投稿

原稿は投稿表紙を含めて1部作成し, 封筒に投稿原稿在中と朱記し, CD-R, FD等の電子媒体(MS Word, Power Point等で保存)とともに下記に書留郵便で送付する。到着日をもって受付日とする。

〒340-0055 埼玉県草加市清門1-265-2

一般社団法人日本キチン・キトサン学会事務局

3. 投稿中または印刷中の論文を引用する場合には, 審査用資料として, その論文の原稿または校正刷りのコピーを1部ずつ添付する。
4. 著者校正は原則として1回のみとする。この際, 校正刷りだけを送り, 原稿は送らないので原稿のコピーを手元に残しておくこと。
5. 別刷りは100部単位で受け付けるので, 校正刷り返送の際に申し込むこと。費用は依頼者の負担とする。
6. 投稿された原稿はすべて原則として返却しないが, 返却希望者は投稿時にその旨申し出ること。

◆付 記

「キチン・キトサン研究」は「原報文」「ノート」「総説」「解説」「話題」「資料」以外にも, 学会報告等の記事を幅広く掲載いたしますのでお投稿ください。形式は自由です。

(2025-4-1改訂)

「キッチン・キットサン研究」投稿論文(投稿表紙)

論文種別 <input type="checkbox"/> 報文 <input type="checkbox"/> 総説		分類 <input type="checkbox"/> 生化学 <input type="checkbox"/> 化学 <input type="checkbox"/> 薬学 <input type="checkbox"/> 医学 <input type="checkbox"/> その他 ()		
原稿総枚数 枚	本文 枚	図, 写真 枚	表 枚	その他(図の説明など) 枚
題 目				
(ランニングタイトル)				
著者名	会員番号	所属機関 所在地		
連絡者	氏 名			
	連絡先機関名			
	同所在地 〒			
	TEL		FAX	
	E-mail			

※掲載論文の著作権は、別に規定しない限り、その電子化、オンラインでの利用を含めてすべて日本キッチン・キットサン学会に属する。

事務局記入欄

原稿番号		受付日		審査終了日	
------	--	-----	--	-------	--